

# 令和8年度 末広りの一年に

着任2年目を迎えました。一昨日の4月7日に行われた入学式をもって、全学年がそろい学校も本格的に始動しました。

今年度の本校の経営について、入学式の校長式辞を一部、抜粋したかたちでお知らせいたします。

\*\*\*\*\*

保護者の皆様、お子様のご入学、おめでとうございます。中学校では「一人の人間として、独立し生きる基礎」を身に付けます。また、中学時代は心が最も揺れ動く思春期でもあり、一人の個人として認め、適度な距離感を保ちつつ見守り、ある時には客観的な視点でお子さんをサポートするなど、成長を支えていただければ幸いです。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校の標準服に身を包んだ感想はどうですか？

これからの中学校生活について、どきどき、わくわくしている気持ちと、不安が入り混じっているのではないのでしょうか。

「高陵中学校で学んでよかった」と3年後の卒業時に思えるよう、学校全体で皆さんを支えます。

皆さんの後ろには、先輩たちがいます。

昨日の始業式で2、3年生にも、こちらのキーワード「手応え」のある一年をと、伝えました。

先輩たちには、皆さんの頼もしい上級生になるよう話しました。

2、3年生の皆さん、1年生のよきお手本となるよう期待しています。よろしいですか？

手応えがある学校生活にするためには、自分から考え、行動する前向きな気持ちが必要です。

くじけそうな時には、友達や先輩たち、本校の教職員、そしてご家族がいます。

相談したり、頼ったりして解決に向かう力も必要です。

また、皆さんの生きる未来は予測困難な未来と言われ、私たち大人が経験していない職業に6割以上が就くと推測されています。

人工知能が台頭し、人間としての真の生きがいや人間ならではの活躍分野は何かを見極め、人工知能と共存する世界を、ここ1、2年でさらに実感しています。

「変化なくして進歩は不可能であり、自身の考えを変えることができない人は、何も変えることができない」とバーナードショーが、

「生き残るのは最も強い種でも、最も賢い種でもなく、環境変化に最も敏感に対応できる種である」とダーウィンが言っているように、私たち人間は柔軟に様々な課題を乗り越えていく力を習得してきました。

この2人は人工知能の台頭を予測していたかはわかりませんが、現代の私たちにとって金言となっています。

3年後、皆さんは自分で進む道を決め、それぞれの進路を歩んでいくときを迎えます。

納得できる結果となるには、先生が準備し教えてくれたものを学ぶ、指示待ちの受け身の学習だけで終わらせない、自ら学びとる態度で授業や行事などを経験する学校生活になるかです。

そのためには、つぎの二つを実践してみてください。

まずは失敗を恐れないことです。

挑戦しなければ見えない景色があります。そこから分かる具体策も知ります。失敗した数だけ強くなり、それを乗り越えた自分を誇りに思ってください。

できるかどうかはやってみなければわからない、行動が結果を変える場合もあります。さらに言うなら、未来は今の選択の積み重ねで変わります。

そして、最後は、

失敗をしても受け入れてくれる学校、学級、部活動集団などであることです。

私たちの周りにはいろいろな人たちがいます。人によって興味も違い、とらえ方もそれぞれです。

自分と違う価値観の人との関係性も学んでください。そうすれば、誰一人としてとりのこされたい、居場所のある安心して学べる高陵中学校になります。

この二つが

高陵中学校を、知識を得て、それを生かして課題を解決する方法を学ぶ場にしてくれます。

最後に私から新入生の皆さんに伝えたい言葉をおくります。この言葉は、2、3年生も知っている言葉です。「皆さんは可能性の細胞でできている」です。

若ければ若いほど、可能性は現実のものとなりやすいです。将来の自分はこうでありたいと、思う自分に近付けるように、可能性の細胞を枯れさせないように、全学年を高陵中学校はあらゆる場面で皆さんを支えます。

結びに

本校の教育理念は「自ら学び、社会とつながり、ともに未来を創る人」の育成です。

そのためには、保護者の皆様、地域・関係機関の皆様との協働的な相互関係が必要不可欠です。

今後とも本校の教育活動にご理解とお力添えをお願いいたします。

\*\*\*\*\*

生徒たちが、「挑戦できる」「みんなが受け入れられる対人関係」を構築できる教育環境を整え、最後には『手応え』を実感できるよう、ときに伴走し、ときには背中を押せる教職員集団であるよう、精進してまいります。

どうか、今年度もよろしく願いいたします。

令和8年4月9日

校長 中山 幸子